

機關を「ブランケンブルグ」に設立して「キンデ
ンガルデン」と名けたのが千八百三十七年である
即ち二十年以上も苦心盡力して始めて成功したの
である、故に吾々も「フレ！ベル」の心を以て倦
まず怠らず今後益々幼児教育の事に盡力し今後數
年の後には幼児保育事業の完全にならん事を希望
するのである。

童話に就いて

高島平三郎

童話と云ふものは幼稚園に關係ある讀者諸君には
頗る深い關係を以て居るものである、元來此幼稚
園の仕事と云ふものは幼児の自發想像が基になつ
て居る、即ち幼児の此時代と云ふものは想像の最
も盛なる時代なるが故に之に童話を聞かしむるこ
とは最も適切なことである、そして童話は想像を
基とせるものであるから自然童話は幼稚園の中心
となつて居る、もつまりは此時代の幼児の遊び
は凡て想像を基として居るからである。

童話の起源と云ふ様なことに就ては夫れく専門
に調査可き價値がある、今現在存して居る所の童
話を調べて見ると其起源は何れも各國の神話と大
に關係のあることが知れる、而して此神話なるも
のの起源に關しては三つの理由がある、童話の起
源を考ふるには是非とも此神話の起源からして調
べて來なければならぬ、其神話の起源に關する三
つの理由と云ふのは

第一、自然の現象を見て人が之に勝手な解釋を附
けることである、例へば「雨が降る」、一水が流れ
る」等の自然現象に對して先づ何故に此の如く降
り又は流るゝかと云ふ疑問を發し、次に之を自己
の日常生活上の習慣的思想に因りて説明し始め
る、即ち「水は神様が流して來さるゝの様に日常
の見聞に對して比較想像し始める、是等は凡て小
兒に表はる心象である、第二は類化の誤りより生
ずることである、
凡て物は直観した許りでは満足することが出來な
い、直観した以上は夫れに就いて考へ夫れに就い
て意味を付ける、例へば二三才の子供が櫻の花の

散るのを見てちい／＼（蝶々）と間違へる様な者である。米國の「ホール」氏は子供に雲を見せて其形に就いて種々なことを云はせて居るが之は即ち類化作用の現出である。

第三想像より起ることである。

元來神話は想像の産物であるが殊に單に自發想像ばかりでなく詩的想像が加はるので神話が一層の面白味をもつのである。且つ其語り傳へ云ひ傳へて居る中に其人々の詩的想像が加へられるので一層面白くなるものである。此詩的想像と云ふのは自發的類化作用に更に想像を加へたものである。以上三つの理由に因つて神話と云ふものは出来るので幼兒のふ伽話も其起源は是と全く同じ性質のものである。従つて童話には歴史、習慣、風俗、風景等が雜入し來るものである。今日一般に行はれて居る童話の中には色々のものがある、大別して童話の最も根本的のもの即ち主なるものはと云へば桃太郎かち／＼山の類で頗る價値あるものである。之を民族的童話と云ふ。是等は畢竟自然に出來たものであるが之に對して文

學者の著作になつたものがある。併し是等の大部分は自然に滅して現今残つて居るものは極めて少ない。足利氏の末に戰國時代に圓端尼と云ふ人が愛國心ある童話を作つて大に歡迎された。之等の類は中々多いものである。此民族童話に對する一類のものを稱して假作物語と云ふのである。併し是等の童話は古へよりの傳來的精神が入らぬから威嚴がない。民族童話は云ひ傳へ語り傳へる中に其民族の性情が入るので一種の犯しがたい威嚴を生ずる様になるものである。

次には偶話と云ふ一類である。彼イソップ物語は即ちそれと日本へは古くから傳はつて居るものである。西洋のものが支那へ傳はり其より日本へ重譯されたものである。年代は凡百五十年程前のことである。之等は伽噺の中には是非加へなくてはならぬものである。併し之等の物語は人の精神が發達して來て動物を人間化して、想像する所から生じた物語であるから高き精神の表はれし後に生ずるものである。之は嚴密に云へば童話の中に

入る可きものではないが普通は入れてある、之は童話の性質を失つて居る。何となれば是等の話は何れも時と處と人との制限を以て居るものである。元來童話は時や處や人などの制限を受ける處に價値があるのである。

以上説明した民族、假作、偶話、武勇の四つが普通に童話と云はれて居るもので幼児に極めて必要なるものである。今見等に就いて一々説明して居る暇がないから其中の民族童話に就いて少し御話しをして見やうと思ふ。尤も民族童話と云ふても世界各國にある事であるから今は唯其中で最も關係の多い我國の民族童話に就いて少し御話しして見やう。

概して云ふと我國の童話は一般に極めて着實で誠に空想が少ない。印度などになると考へは廣いが如何にも空想に走つて居る。従つて其想像は實に廣大なものであるが我國のものは多少之に異つて居る。元來我國人は極めて着實な國民である。其空想と云ふても實際に基くもので田園生活を基として其有様を材料として居ることが多い。従つて

話が何時でも實際的である。例へて見れば我國の桃太郎其他の童話は何れも常に老人が主人公となつて居る。老人が談話の中心となつて居る。是は家庭生活上老人の位置が子供に近い所から自然斯様になつたものであらう。次には我國の童話は主として義侠的思想を吹き込んで居る。是等も我國民の思想上適當のことである。此の如く我國の童話は頗る着實なるものであるから之を印度や、すかんぢなびやの童話に比べると餘程教育的であると云はなければならぬ。

併し我國の童話の中にも一つ如何はしいのがあつた。彼たぬき汁の話即ちかちく山の話などは頗る非教育的である。併し之は能く考へて見ると何うも我國の童話として受取れぬと思ふ節が多い。我國の童話には未だ嘗て斯の如く極端な例を示して居るものがない。是は多分外國から輸入されたものであらう、何うも我國の性情には適せぬものである。斯様な嫌ふ可き童話は家庭と幼稚園と協同して成る可く滅亡さす可きものである。數年前には教育上に童話を用ふ可からずと云つた

時代もあつた。殊に自然科学を研究して居る方面の人達は主として斯る考を以て居つて、教育上には實際の事例を用ふ可しと主張したるものであるが併し此議論は童話を幼稚園より排斥する程有力なものではなかつた。彼我國の童話が義侠心を鼓舞することなどは我國武士道の淵源で子供は知らず識らずの中に此精神を養ふことが出来る。童話には時間と空間との關係がない。又時と所とに關係しないものである。此點に於ては白痴は其特長を發揮して居る。白痴は時と所とを能く忘れるものである。子供は稍之に似て居る。桃太郎の話などしても特別の所は覺えて居るが普通な所は皆忘れてしまふものである。又童話には固有名詞が多い。自然物の名は特別にはなかく覺えられないものであるが實際と關係をのけるゝ能く覺える。而して其材料は兒童に直觀せしめて教へるを可とする。日本では宗教のことは別に於て居るが子供の宗教心を利用することは適當のことである。従つて子供への話の材料は大に其選擇に注意す可きである。科學研究家は

偽りを用ゆるのは悪いと云ふが童話の材料の偽りは子供には偽りとは思はれないのであるから差支ない。子供が其偽りであることを知る様になつたら其時は廢す可きである。若し科學者の云ふが如く幼兒にも童話を與へぬと云ふ様なことがあつたらば幼兒は幼兒としての當然の生活をしないで過すことになる。之は教育上大に忌む可きものである。一體童話ばかりでなく。人は全体其時代に於てに從つて経過す可き生活を經驗して置く必要があるもののである。人の本能は活動するに時期がある。經驗す可き時期に於て其活動を充分に發展させなければ其人は其時代の経験を一生せぬことになる。つまり經驗に於て人並の經歷を持たぬ人となる譯である。彼十四五才にして結婚する人が青年時代を経ずして直に成人になる様なもので此様な人は人間の當然経過す可き経験を有せざるが爲めに或は青年に對して充分に同情する様なことは出来ない譯である。故に人は其時に於て、夫れ適當の生活をしなければならぬものである。幼稚園時代は人間の自然的想像の最も盛なる時代

で自他じたの區別くわつなども未だ明あきらならぬ時ときである。此時このときに於て童話どうわを以て諸種しよしゆの方面かたに關係かへいせしめて子供こどもの精神しんしんを明あきらにして遣やふのは必要ひつやうなことである。小學校時代しょうがくじだいに進すすむと子供こどもは偽いつはりりを疑うたがひ始める。猫ねこが物を云いふの？など、云いふ質問しつもんがそろ／＼發はして來きる。此時このときには童話どうわは大おほいに注意ちういを要まうする。材料選さいりょうせん擇たくを謹こまみ其内容そのないようを調ていどべて程度ていどを割わり當あてる必要ひつやうがある。獨逸どいつでは既いになしつゝある。我國わがくにで此方面このかたの研究けんぎゆうは極こまめて必要ひつやうなことである。(記者曰く女子高等師範附屬幼稚園の要項ようけうには幼兒に發達はつたつに應こたじて之これを割わり當あてる。次に家庭かていに於て幼兒の聞きたる童話どうわの繪えが幼稚園や學校がくはうに備そなへ付けてあると云ふことは必要ひつやうなことである。

子供と談話（承前）

後藤 ちとせ

(二) 話し方の練習
談話と申すと單に保育者が幼兒等に話して聞か

す事ことのみの様ように考かんがへて居ゐらるゝ方かたがありますけれども話し方かた即すなはち幼兒等ようじどうらうが自己じこの思想しゆきやうを發表はつぽうする練習れんしゆも聞き方かたと同様どうように大切たいせつな事を忘わすれてはなりません蓋けつし此練習このれんしゆは主しゆとして

已知じちの談話材料の復習ふくしゆの際とき
庶物話じやくぶつわの時とき

幼兒の經驗其他を隨意に話さず事等によりて致いたしますが尙なほ

他の室内保育時間及び外遊其他に於ける幼兒同志や保育者と幼兒との對話應答

等に於ても絶えず練習せられて居ります例によつて該練習をさせるに就き必要な注意を申し述べませう

(第一) 話し方練習に關する一般注意

(イ) 野やいな言語げんごを用ひしめぬこと

(ロ) 幼兒相應語ようじどうたいおうご尾明びめいかな完全語てんぜんごを用ふることを奨勵奨励すること

(ハ) 幼兒語ようじご (幼兒特有の語例へは髪をカンカン

手をテテ魚をトトなど云ふの類) は漸々普通